

29、進行性筋ジストロフィー症における内分泌的検討

国立療養所西別府病院

三吉野 産 治 三 池 輝 久
藤 本 茂 紘

〔目 的〕

進行性筋ジストロフィー症（以下DMP症）の原因は今だ不明であり、治療として男性ホルモンやパロチン等が用いられたりした時期がある。また杉浦らの報告では甲状腺と睪丸の萎縮ないし発育不全が認められている。この様に本疾患と内分泌との間には何らかの関与が示唆されており、この点の検討を行うことを目的とする。

〔対象ならびに方法〕

国療西別府病院入院中のDMP症 Duchenne type を機能障害別に各群より4名、計12名を対象とし、下垂体-甲状腺系、下垂体-性腺系について検討した。

方法は朝9時に第一回採血し直ちにTRH $4 \mu\text{g}/\text{kg}$ 静注、さらにLH-RH $2 \mu\text{g}/\text{kg}$ を静注負荷、後30分、60分、120分に第二、三、四回の採血を行った。各々の採血で得られた血漿で T_4 、 T_3 -RU、TSH、LHを測定した。測定法はTSHは固相法によるラジオイムノアッセイ法、LHは二抗体法によるラジオイムノアッセイ法を用いた。 T_4 、 T_3 -RUはテトラリュート、トリリュートを用いた。

〔成 績〕

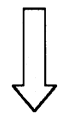
T_3 -RUを除いて、 T_4 、TSH、TRHテストは各群の間に大きな相違はみられなかった。 T_3 -RUは機能障害が進むほど低下傾向があるように思えた。しかし T_4 、TRHテストを含めて考えると全員正常と考える。

LHについては基礎値も、LH-RHテストも年令相応の動向、値を示しているが、やや正常下限を示している。

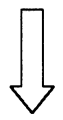
〔結 論〕

T_3 -RU、 T_4 、TSH、TRHテストによる下垂体-甲状腺系についての検討では全員正常であった。

LH、LH-RHテストによる下垂体-性腺系についての検討では、全員正常範囲であるが下限傾向を示し、睪丸組織所見とは、あい反する結果を得た。今後テストステロンやFSHの検討が必要と考えている。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔目的〕

進行性筋ジストロフィー症(以下 DMP 症)の原因は今だ不明であり、治療として男性ホルモンやパロチン等が用いられたりした時期がある。また杉浦らの報告では甲状腺と睾丸の萎縮ないし発育不全が認められている。この様に本疾患と内分泌との間には何らかの関与が示唆されており、この点の検討を行うことを目的とする。